

山口情報芸術センター [YCAM] 教育プログラム

## 鑑賞ナビゲーターキャンプ2021

講師：伊達隆洋（研究者／京都芸術大学准教授）

2021年8月7日（土）、8日（日）各日10:30～17:00 ※2日間通し

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

### 思考をめぐらせる作品鑑賞

### 対話を深めるスキルを養う2日間の教育プログラム

山口情報芸術センター [YCAM] では、対話を通して芸術作品を鑑賞する手法「対話型鑑賞」のスキルを学ぶ2日間のイベント「鑑賞ナビゲーターキャンプ2021」を開催します。

対話型鑑賞は、芸術作品になじみがないと感じる人でも作品鑑賞を楽しんでもらえるように、近年美術館で導入されるようになった作品鑑賞手法です。観察力や思考力、コミュニケーションスキルなど、作品鑑賞以外の能力の向上にも寄与するため、近年、学校教育や医療、ビジネスの現場においても注目を集めています。

本イベントでは、鑑賞教育の専門家として研究者の伊達隆洋（だて・たかひろ）氏を講師に迎え、様々な解釈が可能な作品の鑑賞と、そのファシリテーション技術のレクチャーを実施。対話型鑑賞の基本から実践まで本格的に学んでいきます。

正解か不正解かといった二元論ではない、問題の解決方法や異なる価値観を持つ他者とのコミュニケーションのあり方について考えを深めるとともに、YCAMが重視する、協働を通じた創造の可能性についても触れる機会を創出します。ぜひご参加ください。

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課  
〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 メールアドレス：press@ycam.jp ウェブサイト：www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



「アートってどうみたらいいの？と思ったことがある人へ」の様子（2020年）  
撮影：谷康弘

## 「つくること」だけでなく「みること」にも重点を置いてきたYCAM



「アートってどうみたらいいの?と思ったことがある人へ」の様子(2020年)  
撮影:谷康弘

YCAMでは、2003年の開館以来、メディア・テクノロジーを応用したオリジナルのインスタレーション作品やパフォーマンス・アーツ作品を国内外のアーティストらとともに制作／発表してきました。そして、こうした作品の多くが、YCAMでの発表の後に、国内外のアートフェスティバルや展覧会などでも展示され、高い評価を受けています。

作品の評価とは、アーティストの知名度や、用いている技術の新規性で決まっていくものではありません。作品を鑑賞し、それについて考え、批評的な視点を持つ鑑賞者が多数いることによって積み上げられていくものです。そのためYCAMにとって、新しく制作・発表された作品について、鑑賞者がその意味や価値をともに付け加えていく機会を作るのも重要な活動です。

YCAMでは、作品に対する鑑賞者の視野を拡げるために、作品制作に留まらず、作品をより深く味わってもらえるような鑑賞の機会を提供するプログラムも数多く開発／実施してきました。その代表的な例が、展覧会や公演に際して実施する「ギャラリーツアー」や「バックステージツアー」です。これらのプログラムは、日常的には接する機会の少ない作品の制作プロセスを紹介するとともに、参加者同士の意見交換を軸に多面的な作品理解を促すものとなっています。

今回、こうした取り組みを踏まえたうえで、「作品鑑賞」という行為をより俯瞰的・総合的に捉える視点を持ち、作品鑑賞を通じた共通理解や合意の形成をおこなうファシリテーター／ナビゲーターを育成する「鑑賞ナビゲーターキャンプ2021」を開催します。

### ■ バックステージツアー



撮影:谷康弘

YCAMでおこなわれている滞在制作の様様や、その舞台裏を見学できるツアー形式のイベント。普段はなかなか目にするのでできない劇場の機構やシステムのほか、劇場の仕事、アーティストの作品制作の様子を担当スタッフが作品について一方的に「解説」するのではなく、実際に制作された場所をツアー形式で案内したり、作品について思ったことを参加者と一緒に話し合うことに着目。これらを通して、作品の本質に迫るヒントを得たり、自分と異なる参加者の意見によって視野が広がるような体験ができることを目指している。

## 作品鑑賞をさまざまな領域で応用する



「アートってどうみたらいいの？と思ったことがある人へ」の様子（2020年）  
撮影：谷康弘

「鑑賞ナビゲーターキャンプ2021」では、対話を通して芸術作品を鑑賞する手法「対話型鑑賞」を取り上げ、その手法や効果を、レクチャーやワークショップを通じて学んでいきます。美術館の教育普及プログラムに携わる人はもちろん、今回は特に双方向的な授業の設計を目指す教師の方や、企業内での人材育成や研修などチームビルディングに携わる方にも参加いただけるプログラムとなっています。

### 1日目：ファシリテーターになるための鑑賞

「深い鑑賞」とはそもそもどういうことなのか、鑑賞の基本である「みる」行為の重要性を、レクチャーやワークショップを通じて捉え直していきます。作品を意識的によくみることから始め、そのあとに思考のプロセスを紐解くことで、より深い鑑賞を体験します。その上で、鑑賞者の対話を促進させるファシリテーターに必要なスキルの基本を押さえていきます。

### 2日目：鑑賞のためのファシリテーター

「深い鑑賞」を促すためのファシリテーション技術を学びます。とりわけ現代美術の鑑賞には、鑑賞者自身そしてファシリテーターによる言い換え／読み替えが必要になり、このスキルには「みる」だけでなく「聴く」ことが重要です。作家の意図や作品に表れている「事実」を探すのではなく、鑑賞者によって新たに生み出される「意味」や「解釈」まで踏み込めるファシリテーション技術を、実践を通して学んでいきます。

### 講師プロフィール

伊達隆洋（だて・たかひろ）



2007年より対話型鑑賞の実践と研究に携わる。専門は人間科学、臨床心理学、コミュニケーション論。全国の美術館関係者や教育関係者への研修をはじめ、看護教育や企業での人材研修など、様々な領域で対話型鑑賞を応用した活動を展開している。京都芸術大学アートプロデュース学科学科長。アート・コミュニケーション研究センター研究員を兼任。

### 対話型鑑賞

1990年頃からアメリカのニューヨーク近代美術館（MoMA）で開発された教育プログラム。1つの作品についてグループで話し合いながら、そこででた疑問・意見・感想・解釈などを深めていく。美術作品に対するリテラシー（批評的思考）やコミュニケーション能力を身につける手法としても活用されている。

## 開催概要

## 鑑賞ナビゲーターキャンプ2021

2021年8月7日(土)、8月8日(日)

各日10:30～17:00(10:00開場) ※2日間通し

講師：伊達隆洋(研究者/京都芸術大学准教授)

会場：山口情報芸術センター[YCAM] スタジオA

参加費：8,000円 ※要申込、抽選(申込方法は右欄参照)

定員：40人

対象：18歳以上

※新型コロナウイルス感染症対策など詳細はYCAMウェブサイトをご確認ください。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、本プログラムが全オンラインでの実施になる可能性がございますので、ご了承ください。

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

助成：令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

後援：山口市教育委員会

技術協力：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]

## 関連イベント

## 私もアートがわからない

2021年10月9日(土)、2022年2月5日(土)

芸術作品をより楽しみ、理解を深めるためのイベントです。作品鑑賞の際に生まれる「わからない」という感覚を出発点に、作品鑑賞をより楽しむ「コツ」を、ワークショップや作品の鑑賞会などを交えながらお伝えします。

## キキミチャンネル

2021年10月16日(土)～2022年1月29日(土)

芸術作品の鑑賞を通じて「未知なるものを面白がる力」を育むための、対話型のイベントです。スタッフとともに、YCAMで開催中の上映や展覧会などを鑑賞したうえで、参加者がじっくり考えたり、互いに感想を交換したりしながら、対話を重ねていきます。

## ■ 申込方法

## ウェブサイト：

下記ウェブサイトを用意された申込フォームに必要事項を記入のうえ、お申し込みください。

[www.ycam.jp](http://www.ycam.jp)

## 申込期間：

5月1日(土)～7月3日(土)

※選考結果は7月7日(水)までに通知